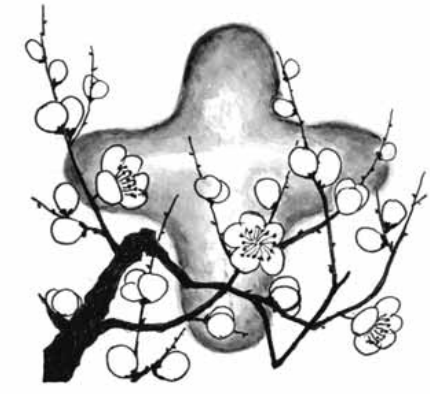




カトリック町田教会  
町田市中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

いかずちの子



自分の罪が消し去られるように悔い改めて立ち帰りなさい。こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられたメシアであるイエスを遣わしてください。

使徒行録 3・19 20 <http://www.machida-catholic.jp/>

十字架の木

京都教区助祭 菅原 友明

四旬節が始まりました。イエス様のご受難に心を合わせる四十日間の祈りの旅です。私たちの罪と苦しみを背負って歩まれたイエス様が最後にたどり着いたのは、カルワリオの十字架でした。何もかも奪い取られて、ただ十字架の木だけが一緒でした。キリストの十字架上の死を記念する聖金曜日(の典礼で、私たちは「クルクス・フィデーリス(十字架賛歌)」を歌

います。「けだかい十字架の木すべてにまさるとうとい木 その葉その花その実りいずこの森にも見られないうるわしい幹 幸いな釘とうといからだを担った木へ典 礼聖歌三三六番) 北米には、十字架の木はハナミズキだったという言い伝えがあるそうです。かつてハナミズキはカシのように強くて大きな木で、それ故に十字架刑のための木材に選ばれま

した。ハナミズキは、そのことを深く悲しんで泣いていましたが、イエス様が「もう大きな木になることはない」と言って慰め、それ以来ハナミズキは今のよう小さな木になったのだそうです。

実際にはパレスチナにハナミズキはなく、十字架に何の木が使われたのかはわかっていません。でも、たしかにハナミズキは十字架を思わせる形をしていますし、花びらの先が少し痛々しくひきつりねじ曲がり、そこが赤くにじんでいて、まるで釘跡の血のようです。そして、秋になると、鮮やかな赤い実をつけ、葉もすべて赤くなり、木全体が真紅に染まるその姿が、十字架で血まみれのイエス様のお姿と重なります。

「クルクス・フィデーリス」の九番にこうあります。「世の救いになった木 十字架の木だけが 闇に漂うこの世界を港に導く救いのふね 小羊の血潮に染まるとうとい木」

私たちが贖った神の小羊の血潮が十字架の木を赤く染めました。かつてモーセが民をエジプトから導き出した時、人々は小羊を屠って、その血を家の鴨居と入口の二本の柱に塗りました。この血の塗ら

れていた家の子らが死を免れて生きたように、キリストの十字架の血によって、私たちも死から命へと過ぎ越します。やがて私たちの四旬節の祈りが深まり、自分を閉じ込めているエジプトを知り、そこで奴隷にされている惨めな自分を知ります。自分が罪に死んでいる事実が見えてきた時、その罪のために十字架上で血だらけになっているイエス様のお姿も見えてきます。イエス様が流された血が私たちを贖い、私たちはそれぞれのエジプトから解き放たれて、永遠の故郷、カナンを目指して歩み始めます。

この尊い過越しをお祝いする復活祭が終わると、いよいよ

二年間を振り返って

運営委員会議長 佐藤 玲子

厳しい寒さが続きますが、ふと庭に目をやると、梅の蕾もほころび始め、春の訪れを感じるこの頃です。

この度の信者総会をもって運営委員を退任いたしました。この間の皆様のご協力にまず、心より御礼申し上げます。

思えば二年前、子供が小さかった頃は毎週欠かさず与っていたミサに、多忙を理由に与ることが少なくなっていた私のささやかな罪滅ぼしの気持ちから、運営委員をお引き

よハナミズキの季節です。春の風に揺れる白やピンクの花びらの、その一枚一枚の先端が、釘跡の血のように赤くにじんでいるはずです。その頃には、私も何処かの教会で新司祭として働かせていただいていると思います。

宣教司牧実習をさせていただきました町田教会の皆様にご心より感謝申し上げます。皆様を支えられて、大切なことをたくさん学ばせていただきました。どうぞ私が司祭職を果たしていくことができようにお祈りください。皆様おひとりおひとりの歩みに、神様の祝福が豊かにありますように、いつもお祈りしております。

受けすることにいたしました。お引き受けした当初は、二年の任期がとて長く感じられ、このような長期に亘って責任を全うできるか不安でいっぱいでしたが、今、振り返ってみますと、あつという間の二年間だったような気がします。運営委員の一年目は、何もわからないまま、涉外と地域プロジェクトを担当させていただきました。二年目は、規約改正により運営委員の定数が減ったため

まさかこの私が議長を務めることになってしまいました。議長になってみて、これまで二十年近く教会に通っていないが、教会の仕組みを何もわかっていなかったことに初めて気付かされました。

けれども、神父様はじめ、運営委員会のメンバーに支えられて、どうにか一年間を終えることができました。

また、任期中は信徒の皆様から、いつもありがたい励ましやお礼の言葉をかけていただき、勇気づけられました。

運営委員は退任いたしますが、これからも微力ながら何か教会のお手伝いは続けていきたいと思っています。

今回退任される運営委員の皆様には、お疲れ様でした。今年二年目の運営委員の皆様および今年から新しく運営委員になられる皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

運営委員の仕事は大変だと思われがちですが、実際に務めさせていただいて、教会という組織がわかるようになりまし、また、運営委員にならなければ出会えなかった方々とも新たに出会うことができ、実り多い二年間だったと思います。

とは言っても、運営委員のなり手は少なく、毎年、人選に苦労しています。

これからは、一人でも多くの方が、教会運営に関心を持ってくださり、運営委員をお引き受け下さる方が増えることを願ってやみません。

集い、祈り、活動できる空間づくり

施設管理委員

大木 雅信

信者一人ひとりが想いをこめ、祈り、犠牲を捧げ、未来への責任を果たそうと二〇〇

一年に献堂された町田教会も建設後十五年を迎えました。施設管理委員会は、二〇〇

七年の発足以来、多くの方々が築かれてきた町田教会の資産を皆様とともに維持し、さらに使いやすく有用な内容に改善し、次世代に引き継いでゆきたいとの想いで活動しております。

施設管理業務を担う私共、委員会にとり有難いことは、皆様から建物や設備につき気づかれたことの連絡、ご提案要望等いつも頂いていることです。即応できないものもあります、しっかり受け止め、関連案件はまとめて対応するなど、できるだけ努力をしております。

また施工にあたっては、聖堂の十二本の柱材をトラス卜修道院まで出向かれ選定された方、聖壇什器を製作され現在は自ら工房を主宰されて

2015年1月1日(イラスト:池永)

「世界平和の日」教皇メッセーヅ

1 もはや奴隷としてではなく、兄弟姉妹として

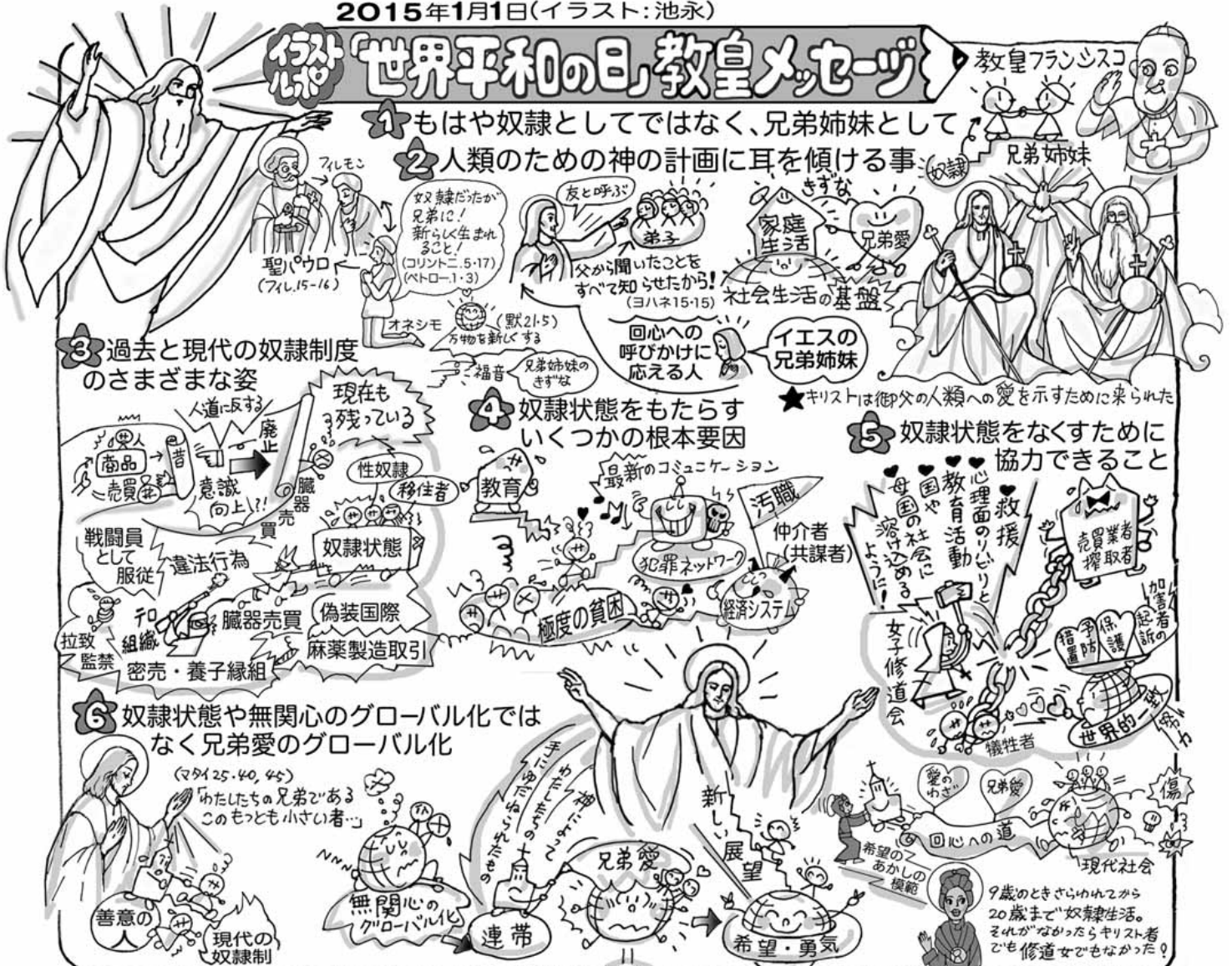
2 人類のための神の計画に耳を傾ける事

3 過去と現代の奴隷制度のさまざまな姿

4 奴隷状態をもたらすいくつかの根本要因

5 奴隷状態をなくすために協力できること

6 奴隷状態や無関心のグローバル化ではなく兄弟愛のグローバル化



いる方、電気設備工事を担われ現役を引退後、ご子息とともに自らも補修工事に関わっている方など、町田教会に強い想いを、また関わりを持つ方々に協力をいただいております。

教会内外の多くの方々に支えられていることに、心から感謝をしたいと思います。

昨年、の信者総会で説明、承認いただいた中長期修繕計画に沿って検討していた空調設備改修も、本年の信者総会にて工事計画を報告し最終確認を経て、東京大司教区での審議、施工承認、発注をお願いするところまで進捗しました。

その間、各委員会との調整を続け、都度、東京大司教区事務局に相談し助言、ご指導をいただきました。また、工事計画に対する第三者からの所見レポート評価もいただきました。経年変化や整備不良などから冷暖房能力が五十%くらいに低下しているため、当初の想定より規模は大きくなりますが、現在の設備が抱える課題を解決するコストパフォーマンスの高い工事となります。本年の夏前には安心して使えるシステムを稼働させる予定です。併せてシステム機器の定期点検、保守整備機器清掃などの保守管理体制も整備いたします。

今後も、中長期修繕計画を基礎に適時に改修を進めますが、併せて新しい時代の町田教会にむけ信者の皆様の様々な司牧活動がスムーズにまた安全にできる改善も、経費の有効活用の視点で進めてゆく予定です。新しく町田教会に

来られた方、若い世代や高齢者に配慮した設備・器材の整備などが想定されます。これからも信者の皆様、各委員会との連携、東京大司教区のご理解、協力を得ながら、委員会の責務を果たしてまいります。今後とも、よろしくお願いたします。

美しいハーモニーへ

聖歌奉仕グループ  
上綱 敦子

私達は毎週水曜日に主日の典礼聖歌の練習をしています。水曜のミサが終わると、皆さんそろそろとオルガンのそばに集まり一つの輪になって座ります。さあ練習の始まりです！初めは小さな声なのですが、練習が終わるころになると聖堂にハーモニーが響き渡るようになります。

一人ひとりの声が違うように、ミサの中で歌われる典礼聖歌に対する考え方もさまざまです。まず意見を出してもいい、その中でどのように舵を取っていくのかは大変なこ

ともあるのですが、そこから少しずつ進むという方法をとっています。もちろん意見が食い違い、言い合いになることも正直あります。難しいです。

練習では、時々まず詩編を読んでいます。言葉はすこくシンプルなのですが、本当に皆で考えさせられてしまうことばかりあります。

クリスマス近くになると聞き慣れた音楽も多く、皆さんいつも以上(?)に張り切ります。またオルガンで奉仕されている方も忙しくなります。ミサではオルガンの音量、音だしのタイミング、音色など、皆さんいつも考えていて、ミサが終わった後、話し合っている姿を見かけます。

また私達は聖週間、復活祭の曲は前もって繰り返し練習をしています。葬儀の時も、集まった方たちで限られた時間内でハーモニーをつくり、リクエスト曲があればできる範囲内でお応えしています。このように私たちは、自分達のできる形で奉仕をしています。

いつも思うことがあります。水曜日に練習した典礼聖歌が、ミサになると、とても美しいものに変化するので。不思議です。聖堂全体の空気が一つにまとまるのです。

カリタス原町ベースを訪れて  
水野 貴久子

東日本大震災から間もなく四年。支援活動の拠点の一つ原町ベースは津波と原発事故の二重被災地、南相馬市にある。福島原発から二十数キロ、近くの原町教会の庭の放射線量は0.2マイクロシーベルト前後。震災前教会隣の幼稚園には八十人いた園児が現在は三十人。

昨夏「野馬追祭り」で賑わった広場は0.8マイクロシーベルトで人影もなく、馬事公苑も閉鎖されたまま。その静寂が身を刺すように感じた。ベイスの南、小高地区は昼間だけ入れれる。常磐線がまだ不通の小高駅には数十台の自転車

が整然と並べられていた。三月十一日の朝、ここに駐輪して高校や職場に向かった人たちの帰りを待つ自転車。津波で大勢の人が亡くなった駅前では理容院が一軒だけ営業中。病院は看護師が集まらず診療所として開設。避難解除に向け食堂と旅館が改修工事中。

震災後「希望の牧場」と呼ばれている吉田牧場へ案内してもらった。途中あちこちに除染作業中という黄色い旗に囲まれ、パワーシャベルと作業員の姿があった。そばには千キ口の汚染土などを入れた

黒い袋がきちんと積み上げられていた。作業員に放射線の影響がなければよいが、原発事故さえなければ豊かでのどかなはずの田園を通って牧場に着いた。1.0マイクロシーベルトもあり居住禁止区域。しかしポランテアが四十頭の牛の世話に来ていた。無心に草をはむ牛たちにどんな希望があるのだろうか？

寺内仮設住宅の集会所ではカラオケや手芸などを楽しんでいる人たちに会った。方言は半分も理解できない私を誰もが優しく仲間に入れてくれた。おしゃべりを聴いている人々の苦悩は深まっているよ



2015年1月11日  
成人式おめでとう

うに思えた。除染が進んでも元の家に帰るのは容易ではない。東電の賠償金の打ち切りが予想される中、将来の見通しも立たない。元は地縁血縁の絆が強かった地域で、家族間にも住民間にも溝が生じている。夕方からの外出は危険と聞いて驚いた。

さて、祈りのほかに私にできることは？ ベースに来るボランティアさんの食事作りや洗濯の手伝い。被災者とお茶を飲み、おしゃべりを聴きながら手芸をすることくらい。皆さまにはもつとできることが必ずありでしょう。

マルコによる福音書注解

メアリー・ヒーリー著

田中昇神父訳



この本は注解書ながら、聖書物語を読んでいるように面白い。簡潔といわれているマルコを女性らしい細やかさで掘り下げ、カトリック教会としての視点から最新の聖書研究のもとに記されている。

題目ごとに区切られた本文の前後に、わかりやすい解説が語られる。地図や人名、用語の説明、時代の背景など情報も豊富。聖書への深い思い入れの込められた訳者あとがきは必読。  
(横塚千枝子)

**犠牲献金**  
中高生会

12月7日 15,762円  
(ペロニカ苑へ)  
1月4日 18,664円  
(ペロニカ苑へ)

**お詫びと訂正**

昨年発行の「雷の子」に次の誤植がありました。お詫びして訂正いたします。

- ・ 302号4頁「私の原爆記」
- 1段12行目「強い熱戦を受け」「強い熱線を受け」
- ・ 304号4頁「もう一つの書架」1段30行目「ふつうの読者より」「ふつうの読書より」

**クリスマスお泊り会**

12月13日～14日



ケーキ作り、プレゼント交換など、みんな元気いっぱいに楽しみました。



ヨゼフ会新年会 (1月25日)

**信者動静**  
2014年11月～2015年1月

(個人情報のため、削除しています)